

中国における旧正月の風習について

電子お年玉

お正月は新しい年の始まりなので、中国でも日本でも大切な時期であることには変わりありません。しかし、時期が異なっています。お正月といえば日本では1月1日から3日頃までですが、中国では、旧暦の正月(旧正月(春節))をお正月としています。

今回は中国の「旧正月」(以下、お正月という)に関する風習を紹介します。

お正月は様々な風習があり、賑やかな雰囲気の人々は笑顔にあふれています。例えば、大晦日には家族と一緒に食事をして祝いし、赤い提灯や赤いひし形に「福」の文字を書いた紙を飾りつけ、爆竹を鳴らし、花火を打ち上げるという風習があります。さらに、新しい服を買ったり、親戚を訪問する風習は15日から1ヶ月間ほど続きます。



提灯などの赤い装飾
出典:フリー写真WebサイトPixabay



お正月の間に行われるイベント
出典:フリー写真WebサイトPixabay



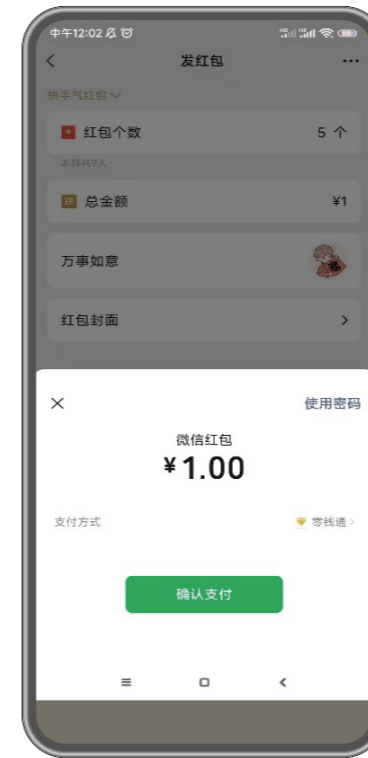
様々なデザインのお年玉袋

中国は日本と同じく、お正月に「お年玉」を渡す風習があります。中国で「压岁錢(ヤースイチェン)」と呼ばれるもので、親が子供に渡すだけでなく、上司や年長者が、学生、独身者や会社の部下たちに渡す場合もあります。お金を赤い紙で包みますが、これは「願いと幸運を授ける、新しい年が無事に過ごせる」といった意味が込められています。

近年はコロナの影響でお正月に実家に帰ることが難しくなっています。しかし、インターネットの普及により、多くの人々がオンラインで新年の挨拶をすることが多くなりました。また、中国国内では電子決済市場やサービスが拡大して、「電子お年玉」が中国の人々の間で盛んになっており、お正月の新たな風習の一つとなっています。

中国インターネット情報センター(CNNIC)が発表した「第50回中国インターネット発展状況統計報告」によると、2022年6月の時点で、中国のネットユーザー数は約10億5,100万人となりました。2021年12月より1,919万人増加し、インターネット普及率は74.4%に達しました。そして、中国のモバイル決済ユーザーは世界最多です。

微信(WeChat)は、中国で約6.8億人が「電子お年玉」のゲームに参加したと発表しました。「電子お年玉」は指定した人に送るだけでなく、お年玉争奪戦ゲームをすることもできます。例えば友人など5人のグループを作り、送る側が「2人に5元をランダムで配布する」と設定すると、画面を早く開いた2人が受け取ることができます。また、金額もランダムに設定できるため、最も高額な金額を獲得した人は、今年1年運がいい人とされます。2022年のお正月期間中、約3.8億種類の「電子お年玉」が配布され、受け取った総数は約46億回を超えました。



電子お年玉を支払う画面



真ん中の「開」をタップすると電子お年玉が入金される



WeChatグループで複数の人が電子お年玉のゲームに参加できる

「電子お年玉」には複数のスタイルがあり、個性的な祝福画像をアップロードするだけでなく、特色のある祝福語を作成することもできます。送る側は受け取る側の微信インターフェースを開き、金額を入力し、支払いパスワードを入力するだけで、すぐに「電子お年玉」の送信を完了することができます。

ここ数年、「電子お年玉」は若者から支持を集め、お正月に行われる風習の一つとなっています。新年に顔を見て挨拶をするという伝統的な方法に比べて、インターネット上でお金を送る「電子お年玉」は貴重な贈り物ではないものの、遠く離れていても相手を想う気持ちを送ることができます。

中国人は特別何もない日は仕事をして稼いだお金を貯蓄します。しかし、お正月や他のお祝い事の日には、貯蓄したお金を大量に消費して楽しむ傾向があります。祝日の雰囲気と共にお金を消費することで、労働することの意味を見出しているのかもしれませんが、それにより経済に対しても生産と消費が促進されます。

「電子お年玉」は現在、新しい娯楽として人々の生活の一部になっています。また、お年玉を受け取る側は事前に金額が分からないので、いくら貰えるのかワクワクしたり、貰うまでに送る側とその気持ちを共有することで、双方のコミュニケーションの機会を増やすきっかけにもなっています。

複数の人が同じ「電子お年玉」を受け取ったとき、受け取った金額も運気の表れとされています。そして、最小金額である0.01元(約0.19円)を奪いあっても、この瞬間を楽しんでいるのではないのでしょうか。

「電子お年玉」の誕生によりお正月の楽しみ方が一つ増えました。

大連亜福友諮詢有限公司
(株)アジア福岡パートナーズ大連現地法人
杜 妹亭(としゅてい)

